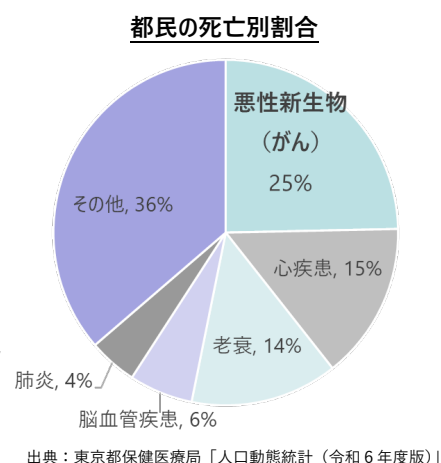


参考：がん検診について

■ がんは、誰でもなる可能性があります。

日本人の2人に1人が生涯のうちにがんになると言われており、誰でもがんになる可能性があります。また、令和6年にがんが原因で亡くなった都民は34,610人で、死因の約4分の1を占めます。

がんは初期の段階ではほとんど症状がないことが多く、知らないうちに進行することもあります。自覚症状なしに進行するがんを早期に発見するための手段が、がん検診です。



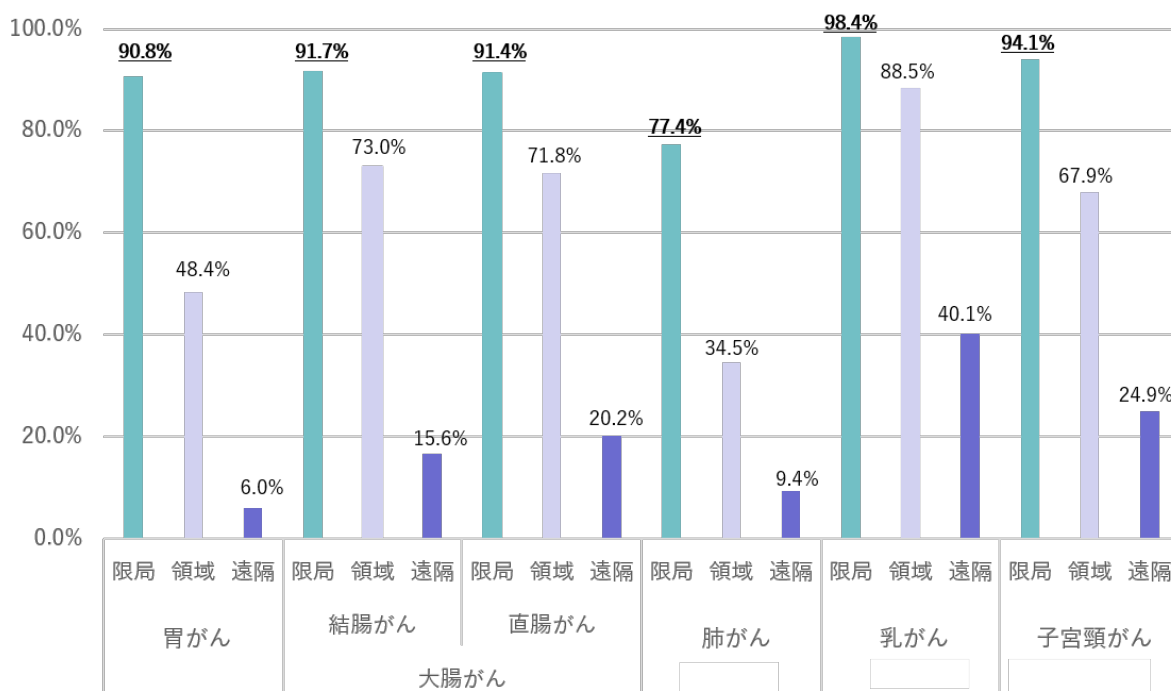
■ がん検診の定期的な受診が重要です。

検診が推奨されている5つのがんでは、早期発見・早期治療による5年後の生存率は胃がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がんは90%以上、肺がんは約80%です。

一方、がん検診の受診を見送り、次の受診までの期間が空いてしまうと早い段階で発見できたはずのがんが進行した状態で見つかることにもなりかねません。

必ず定期的ながん検診を受診しましょう。

がんと診断されてから5年後の生存率（進展度別※）



出典：公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計 2026」

※ 診断時点のがんの広がり程度により、以下のとおりに分類される。

限局：がんが原発臓器内にとどまっている状態

領域：隣の臓器等に広がっている状態

遠隔：遠くのリンパ節等に転移している状態

出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がんに関する用語集」進展度

■ がん検診の対象年齢や受診間隔について

がんによる死亡率の減少効果が科学的に証明されているがん検診として、国は以下の5つのがん検診について、検診項目、対象者、受診間隔等を指針で定めて受診を推奨しています。

がん検診の種類	検診項目	対象者	受診間隔
胃がん	問診、胃部エックス線検査または胃内視鏡検査※ ※当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上、年1回の実施で差し支えない	50歳以上	2年に1回
大腸がん	問診、免疫便潜血検査	40歳以上	年1回
肺がん	質問（問診）、胸部エックス線検査		
乳がん	質問（問診）、乳房エックス線（マンモグラフィ）検査	40歳以上（女性）	2年に1回
子宮頸がん	問診、視診、子宮頸部の細胞診、内診	20歳以上（女性）	
	問診、視診、HPV検査	30歳以上（女性）	5年に1回

がん検診の結果、「要精密検査」と判定された場合には、必ず精密検査を受けましょう。

■ がん検診の申込み先

詳細は、お住まいの区市町村にお問い合わせください。

お勤めの方は職場でがん検診を実施している場合もありますので、職場の担当者までご確認ください。

各区市町村のがん検診担当部署はこちら

<https://kenko-station.metro.tokyo.lg.jp/category1/gan/busho/index.html>